

360°

フォトジャーナリスト

宇田 有三

み始める。バスの運転手は、かに抵抗しただけだ。そんな座っていたパークスさんにな一人の女性の勇気ある行状が米国の歴史を動かしたきっかけと拒否をし、逮捕された。

この事件は、ルーサー・キング牧師が全面に出ることになる、米国の公民権運動につながる第一歩だった。パークスさんは、声高に拳を突き上げ、権利主張をしたのではない。ただ、不合理的な社会システムに静

を差別する法律には、例えばバスに乗ると、白人は前、黒人は後ろに座るといふ決まりがあった。バスの中は

## パークスさんとの出会い

目の前には、ローザ・パークスさんという老婦人が座っていた。笑顔いっぱいの人びとに囲まれたパークスさんは、気軽に記念写真にに応じていた。大柄な黒人女性と並ぶと、本当に小さな姿。米国ボストンで写真を勉強していた十四年前、記念講演のため当地を訪れたパークスさんに出会った。

一九一三年生まれのパークスさんは、私が中学か高校の時に使っていた教科書に登場していた人でもあった。教科書に出ていた人を写真に撮るとは、ちょっと、

席に座っていた。バスが混



講演の後、記念撮影に應じるローザ・パークスさん (1991年、米国・ボストン)

であった。もちろん彼の演説会には、異議を唱える人びとが集結した。だが、その一方で、彼を支持する人びともまた大勢集まった。米国の歴史上の負の遺産だと思っていた団体が、実は、根強く生き残っていると肌身で知って、正直ショックだった。

二〇〇一年九月十一日以降起こった事件「米軍によるアフガン侵攻やイラク攻撃」をパークスさんはどう思っているのだろうか。直接、聞きたくて、連絡を取ってみた。

「パークスさんは今、健康がすぐれず、インタビューに答えることができません」

取り次ぎの人からの返事が返ってきた。

パークスさんは、病床で現在の米国の状況をどう考えているのだろうか。